



発行所
 十勝毎日新聞社
 ©十勝毎日新聞社 2003
 〒080-8688
 帯広市東1条南8丁目
 TEL(代表)0155-22-2121
 編集局 0155-22-2121
 広告局 0155-23-2323
 販売局 0155-24-2222
 事業局 0155-22-7555
 総務局 0155-24-2299
 広尾支局 01558-2-4111
 池田支局 01557-2-2367
 本別支局 01562-2-2618
 新得支局 01566-4-5524
 札幌支社 011-261-2161
 東京支社 03-3544-1365

データ通信で管制目指す JAXA ヘリ飛行実験開始

大樹航空公園

飛行実験に使用するため、大樹町多目的航空公園に飛来したヘリコプター「MuPALe」



【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA、ジャクサ)は、今週から大樹町多目的航空公園で多目的実証実験機のヘリコプター「MuPALe(ミューパル・インシロン)」を使った飛行実験を始めた。同公園では3回目の実験。今回は音声ではなく、データ通信を利用して管制機能の拡充を図る。実験では搭載した試験装置で上空と地上との通信性を確認する。将来的には自動管制システムの開発も目指す。このほか、風計測など計5種類の試験を実施。11月7日まで各種データを取得する。JAXA・航空安全技術開発センターの奥野善則ヘリコプター飛行安全チームリーダーなど、計13人が実験に参加。現在、航空交通の管制は、離着陸する航空機に対して地上の管制官が音声で指示を送っている。これに対し、データ通信による管制では、指示する飛行情報をコックピット上の画面に送信。文字などで表示できるようになる。

今回は「時分割データリンク装置」と呼ばれる試作装置を機体に搭載した。同航空公園の上空数百メートルを飛行。地上と通信し、機能を確認する。奥野リーダーは「データによる通信は、音声に比べて聞き違いや聞き逃しによるミスをなくするなど、安全性を高められる。12月には飛行機型の実験機に同じ装置を載せて実験する」と話している。(浅井文人)